

1-(2) 水田を活用したレタス産地の維持

— 栽培面積の拡大による産地維持及び安定生産に向けた取組 —

1 活動のねらい

君津地域のレタス産地は生産者の高齢化により縮小していくことが懸念されており、指定産地要件や市場評価を継続して確保していくためには、産地面積の維持・拡大及び高精度な出荷情報の発信が必要となっている。そこで、当事務所では産地面積の約7割を担う若手生産者の栽培面積の拡大や出荷情報の高精度化に向けた取り組み、近年の異常気象に対応した安定生産技術の向上を図るために活動支援を行った。

2 課題の背景

木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市の4市98名により約60haのレタスが栽培されているが、高齢化により栽培者は減少傾向にある。一方、若手生産者の一部で従来のラップをする市場出荷とは異なり、ほ場で収穫したレタスを無包装でコンテナに詰めて出荷する契約出荷の取組が増加している。

また、この省力的な出荷方法によって栽培面積の拡大を図る動きがあり、併せて雇用の導入が進んでいるが、労務管理について雇用の定着や人材育成等の課題がある。

台風や大雨等の近年の異常気象により、作業遅延や生育の停滞等が起こり、収量や正品率の低下といった問題が生じている。これらに対応するためには、安定生産技術の向上が必要となる。

3 普及活動の経過

(1) 若手生産者の栽培面積拡大

若手生産者の栽培面積の拡大や省力化を目的に、トンネル支柱打込機の実演及び鉄製トンネル支柱に代わるダンポールを用いたトンネル栽培方法の展示や加工業務野菜に関する視察研修会を開催し、若手生産者の経営資質向上を促した。

また、契約出荷の販路拡大や雇用増加後の労務管理の手法としてGAPの実践・認証を志向する生産者に対し、先進事例の視察や作業場等での改善指導を行った。



写真1 加工業務野菜に関する視察研修会



写真2 レタス資材展示・省力化機械実演会



写真3 GAPに関する先進事例の視察

(2) 安定生産技術の向上

平成30年度に設置した排水関係の試験について栽培講習会で説明し、レタス栽培における排水対策の重要性を周知した。

また、台風襲来前に事前・事後対策を記載した資料を配布し、強風や大雨による被害軽減の周知を図った。

(3) 出荷情報の高精度化

出荷情報の高精度化のため、農研機構が開発した「出荷予測システム」の検証について、JA及び各部会役員に合意を得た上で現地実証を行った。

4 普及活動の成果

(1) 若手生産者の栽培面積拡大

省力化資材・機械の展示・実演会及び視察研修会を開催したところ17名が参加し、若手レタス生産者の栽培面積拡大や経営改善への意欲が高まり、参加したうちの4名が栽培面積拡大を図った。また、継続的に省力化資材や機械の展示・実演を行ったことで、従来とは異なる省力資材を用いた栽培方法に挑戦する若手生産者が1戸現れた。これらの活動により、若手生産者の栽培面積は5.4ha増加、契約栽培面積は7.2ha増加した。

表1 若手生産者及び契約出荷における栽培面積

当事務所調べ

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
若手生産者人数	15	17	21	21	27
若手生産者栽培面積(ha)	22.4	28.7	34.4	36.6	42.0
契約栽培面積(ha)	15.7	18.2	21.0	25.3	32.5

GAPの実践・認証を志向する生産者に対して支援した結果、既に認証取得に向けて取り組んでいる経営体1戸に加え、1戸がGAP認証取得に意欲を示した。

(2) 安定生産技術の向上

排水対策技術の展示は設置や栽培講習会での重要性の周知を継続的に行ってきたことで、排水対策に対する意識が高まり、一部の生産者から排水対策機械の共同利用に関する意見が挙がった。

(3) 出荷情報の高精度化

「出荷予測システム」の現地実証では、一部作型で台風被害により出荷予測精度が低かったが、厳寒期のトンネル栽培では、収穫開始日の誤差が2日に納まり、高い精度の結果を得ることができた。

5 今後の発展方向と課題

レタス産地の維持・発展のためには、若手生産者の省力化機械導入及び出荷形態の変更による栽培面積拡大が重要である。また、関係機関と連携し、産地の方向性の検討や新規栽培者を確保・育成するための体制作りが必要である。

6 担当

南部・中央・北部グループ

7 協力機関

木更津市農業協同組合、君津市農業協同組合、全国農業協同組合連合会千葉県本部、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、農林水産部担い手支援課、生産振興課、流通販売課、農林総合研究センター